

2026年度 教 育 課 程

茨城県立看護大学校
助 産 学 科

〒309-1703 茨城県笠間市鯉淵6528
TEL 0296-77-0533
FAX 0296-78-0079

Mail: ibarakikango@pref.ibaraki.lg.jp

目 次

1	教育理念、教育目的、教育目標	1
2	教育目標の軸となる「3つのポリシー」	2
3	主要概念	5
4	カリキュラムの構造図	6
5	授業科目および単位数	7
6	教科外活動の内容と時間数	8
7	2025年度(令和7年度)教育進捗計画	9
8	教育内容	
	基礎助産学	
	助産学概論	11
	人間の性と生殖	13
	周産期と乳幼児の生理	15
	周産期と乳幼児の病態	17
	母子の健康科学	20
	家族社会学	22
	ウィメンズヘルス	24
	助産診断・技術学	
	妊娠期の助産診断・技術学	26
	分娩期の助産診断・技術学Ⅰ	28
	分娩期の助産診断・技術学Ⅱ	29
	産褥期の助産診断・技術学	31
	新生児期の助産診断・技術学	33
	ハイリスク妊産褥婦の助産診断・技術学	35
	緊急時の助産診断・技術学	37
	健康教育技法Ⅰ	38
	健康教育技法Ⅱ	40
	地域母子保健	41
	助産管理	44
	助産学実習	47
9	助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標および授業科目	50
10	助産師教育の技術項目と卒業時の到達度	53
11	受胎調節実地指導員認定講義カリキュラム	54
12	助産師の倫理綱領	56

1 教育理念、教育目的、教育目標

教育理念

茨城県立看護大学校は、地域医療を支え、県民の健康の担い手として、あらゆる場で活躍できる、質の高い助産師・看護師の育成を使命とする。

看護学は、生命の尊厳と人間愛を基盤とした実践の科学であるとともに、対象のあらゆる健康段階に働きかけ、対象がその人らしい生活をおくれるよう支援することである。

さらに、看護の対象は、多様な価値観をもち地域社会の中で生活し、成長・発達・変化し続ける人間であることから、専門職業人として豊かな人間性と倫理性を養うとともに、他の専門職と連携・協働し、生涯学び続ける姿勢をもち、社会のニーズに即した看護実践力の育成を目指す。

教育目的

助産師・看護師として必要な専門的知識及び技術を修得させ、豊かな人間性と倫理観を養い、専門職業人として社会に貢献できる人材を育成する。

教育目標

- 1 助産師の役割及び責務を自覚し、人間の尊厳と権利を擁護できる豊かな人間性と倫理観を養う。
- 2 専門的知識と科学的思考に基づいた判断力と助産実践能力を養う。
- 3 女性の生涯にわたる健康を支援し、地域社会の母子保健に寄与できる能力を養う。
- 4 多職種と連携・協働しながら、自律した役割を遂行できる能力を養う。
- 5 専門職業人として自己研鑽し、助産を探究し続けることができる能力を養う。

2 教育目標の軸となる「3つのポリシー」

1. アドミッションポリシー(入学者受入の方針)

- (1) 生命や人権の尊重を基盤にした倫理観を持って行動できる人
- (2) 協調性及び責任感があり、誠実に行動できる人
- (3) 相手を尊重した態度で他者とコミュニケーションが取れる人
- (4) 助産学の学習に必要な看護基礎的能力を有している人
- (5) 自己の学習課題が明確で主体的な学習ができる人

2. カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

本校のカリキュラムは、母子保健の向上に貢献できる実践者として、科学的根拠に基づいた講義・演習・実習のカリキュラム構成である。

授業科目は「基礎助産学」「助産診断・技術学」「地域母子保健」「助産管理」「助産学実習」の科目をディプロマポリシーに掲げる知識・技術・態度の修得のために、体系的に編成している。

- (1) 「基礎助産学」は、助産診断・技術学、地域母子保健、助産管理、助産学実習の修得に必要な知識・技術・態度を養うための基礎としている。助産の対象である人間理解を深め、論理的思考に基づく判断力を育み、学生が豊かな人間として成長できる素地を築くことをねらいとし、科学的思考の基礎、人間と生活・社会環境、女性の健康管理を視点とし7つの授業科目を配置した。
- (2) 「助産診断・技術学」は、地域母子保健、助産管理、助産学実習に発展するための土台となるようあらゆる健康レベル・発達段階にある対象のケアに必要な知識・技術・態度を養う領域として位置づけている。助産診断・技術学では、妊娠・分娩・産褥・新生児の経過の正常・異常の診断をするための知識を学び、正常な経過からの逸脱およびハイリスク状態を予測する臨床判断能力を身につけ、助産診断能力を育てる。そのためには、科学的根拠に基づく助産診断過程・実践過程で構成し、講義・演習で学修できるよう9つの授業科目を配置した。「分娩期の助産診断・技術学Ⅰ・Ⅱ」については、実習に直結する質を保障するため、科目修得後に「助産診断・技術学実習Ⅰ」を履修するものとした。

- (3) 「地域母子保健」は、助産師の活動の場は病院にとどまらず、助産所や保健センター産後ケアセンターなど、妊娠期から継続的に母子を支えている。妊娠期から子育て期にわたる継続的なかわりには、母子だけでなく父親・家族を含めた継続的支援、多職種と連携・協働しながら包括的支援が求められる。そのためには、地域の母子保健の現状と課題を理解し、地域における子育て世代を包括的に支援する内容とした。
- (4) 「助産管理」は、助産師は、安全で快適な助産ケアを提供するために、周産期管理システムやリスクマネジメント(感染対策・災害時の活動含)、組織管理の能力が求められる。管理的な視点で病院、助産所、周産期センターにおける助産業務を学ぶ内容とした。
- (5) 「助産学実習」では、講義で学んだ知識・技術を統合し、安全で快適な助産ケアを提供できる助産実践能力を習得するため「助産診断・技術学基礎実習・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「地域母子保健実習」「助産管理実習」の6つを授業科目と配置した。

「助産診断・技術学実習」では、10回程度の分娩介助をとおして産婦と胎児の健康状態を判断し、より自然な分娩経過を促すための安全・安楽な助産ケアの実際を学ぶ。また、継続事例を妊娠中期より受け持ち産後1か月まで継続して関わることで、対象の抱えている状況をとらえ個別的支援の実際を学ぶ。

「地域母子保健実習」では「助産診断・技術学実習」「助産管理実習」を踏まえ、女性の健康と親子関係の支援、地域の母子保健事業(子育て世代包括支援)の実際を理解し、継続的に母子を支える多職種と連携・協働の実際を学ぶ。また、産後ケアセンター実習では産後4か月までの母子の支援から切れ目ない支援の実際を学ぶ内容とした。

「助産管理実習」では、助産業務の管理や助産所の運営、周産期システムの実際を学ぶ。

なお、「助産診断・技術学実習」は、「助産診断・技術学基礎実習」の単位を修得した後、「助産診断・技術学実習Ⅰ」「助産診断・技術学実習Ⅱ」「助産診断・技術学実習Ⅲ」を履修するものとする(履修規程 第8条 臨地実習授業科目の履修制限)。

3. ディプロマポリシー(卒業認定の方針)

本校の教育理念・教育目的に基づきカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、専門職業人として自覚と責任を持ち、地域社会に貢献できる実践者として、専門的な知識及び技術を身につけている学生に卒業を認定したものに、卒業証書を授与(助産師国家試験の受験資格)する。

教育目標1 助産師の役割及び責務を自覚し、人間の尊厳と権利を擁護できる豊かな人間性と倫理観を養う。

- (1) 多様な対象の価値観やニーズを尊重でき、対象とよりよい関係性の構築に努めることができる。
- (2) 人間の性と生殖に関連した女性の健康増進・疾病予防にむけ、対象の立場に立って、寄り添うケアができる。
- (3) 助産師としての職業倫理を理解し、倫理観に基づいた行動がとれる。

教育目標2 専門的知識と科学的思考に基づいた判断力と助産実践能力を養う。

- (1) 安全・安楽に基づいた実践ができる。
- (2) 正常な経過にある妊婦・産婦・褥婦及び新生児に対する援助が実践できる。
- (3) 正常から逸脱した妊婦・産婦・褥婦及び新生児への医療・ケアについて理解できる。

教育目標3 女性の生涯にわたる健康を支援し、地域社会の母子保健に寄与できる能力を養う。

- (1) 助産の対象を、女性の生涯としてとらえることができる。
- (2) 対象にとっての健康と生活を守ることについて考え、行動できる。
- (3) 多職種と連携し、切れ目のない支援を担う助産師の役割を理解できる。

教育目標4 多職種と連携・協働しながら、自律した役割を遂行できる能力を養う。

- (1) 対象が暮らす地域の母子保健・医療・福祉の動向に関心を持てる。
- (2) チームの一員として、自己の役割遂行の自覚と責任を果たすための基本的な行動がとれる。

教育目標5 専門職業人として自己研鑽し、助産を探究し続けることができる能力を養う。

- (1) 常に省察的態度をもち、助産実践を振り返り、自己研鑽し続けることができる。
- (2) 生涯にわたり、助産を探究し続けることができる。

3 主要概念

看護学を構成する主要概念は、人間・環境・健康・看護の4側面からとらえ、人間を中心にとらえ環境は人間のすべての営みに影響する概念と位置付ける。助産の対象は、ライフサイクルすべての女性と、妊娠・分娩・産褥・育児期にある女性と子ども及びその家族であり、女性の生涯にわたり、健康と生活を守り、環境との相互作用の中で絶えず変化し成長・発達している。また、多様な対象の価値観やニーズを尊重し、自己実現への役割を担う。

【 人 間 】

・人間は、環境・人との相互作用の中で自己実現を目指し成長・発達し続ける存在であり。人間の権利・尊厳を守り一人一人価値観を持ち、自らの責任において意思決定し、自己実現へ向かう存在である。助産の対象は、ライフサイクルすべての女性と、妊娠・分娩・産褥・育児期にある女性と子ども及びその家族に焦点をあてる。

【 環 境 】

・人間と相互に作用し、生活様式、思想、社会、文化、健康状態などあらゆる外部・内部環境が直接的、間接的に作用し影響を受ける。人間の性と生殖は、母子を取り巻く社会情勢や多様なニーズの変化、生殖技術の進展等の環境変化が大きい。

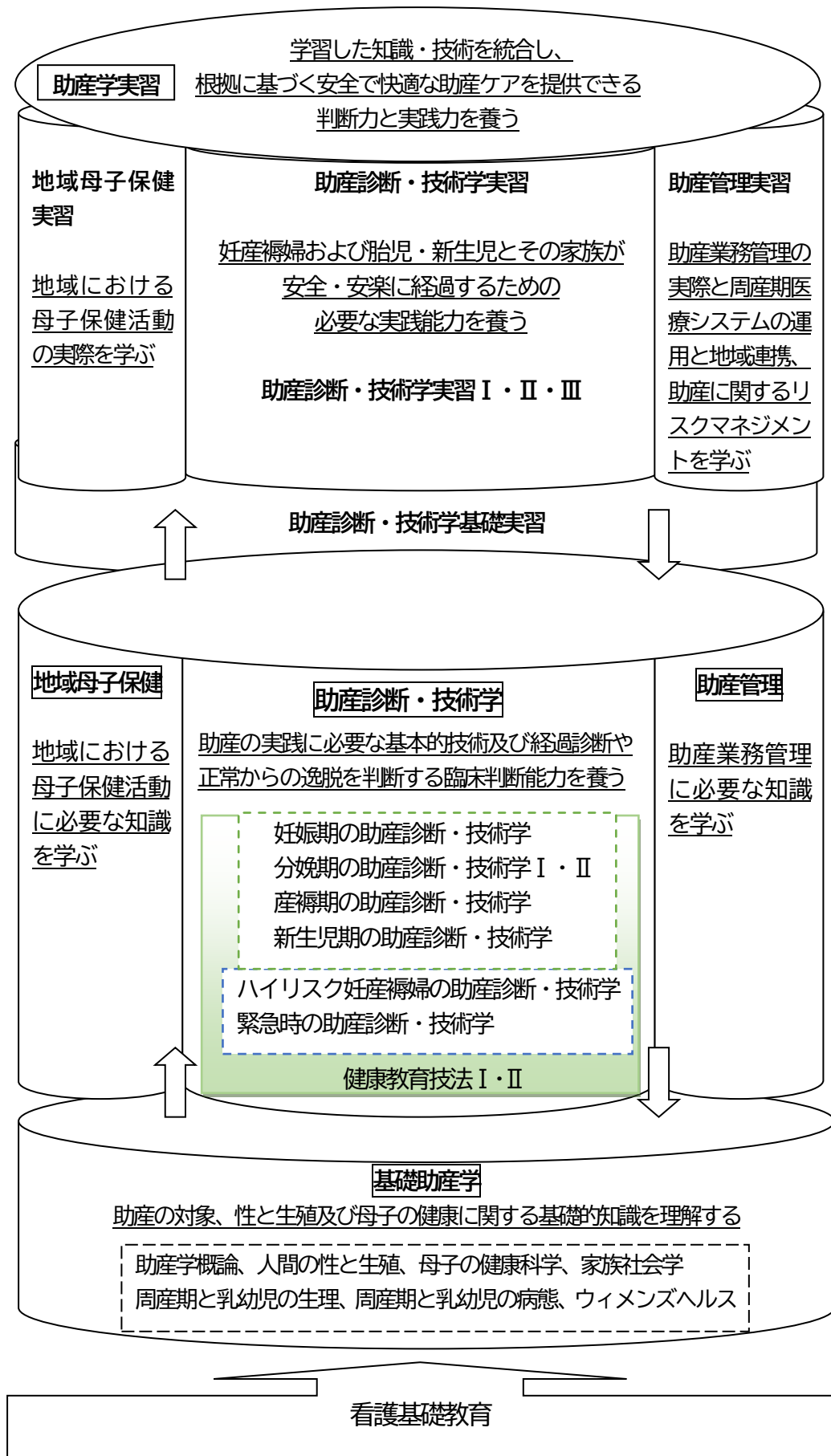
【 健 康 】

・人間が環境との相互作用の中で、その人にとって最良の健康状態は、人間の持っている能力を最大限に発揮し、自己実現を目指し環境に適している状態である。また、健康の保持・増進・疾病予防が重要である。助産は、産婦の産む力と胎児の生まれる力を最大限に引き出せることである。また、安心して子どもを産み育てられるように予防的かかわり(健康支援)が健康の支援につながる。

【 助 産 】

・すべての女性と子どもおよび家族の性と生殖にかかわり、健康と生活を支える専門職として、差別を設けず、人間の尊厳と権利を尊重し平等に支援する。女性と子どもおよび家族にケアを行う際は、個々人の習慣や文化的・社会的背景に基づく価値観とニーズに応じ、最善のケアを提供できるよう、対象との信頼関係を築くことが重要である。また、専門的知識と技術を、対象の持っている能力を最大限に発揮できるよう、多職種と連携・協働し、対象にとってより良いケアを支援する活動である。

II カリキュラムの構造図



5 授業科目および単位数 (学則第9条第1項 別表1)

教育内容	授 業 科 目	単位数	時間数
基 礎 助 産 学	助産学概論	1	30
	人間の性と生殖	1	30
	周産期と乳幼児の生理	1	30
	周産期と乳幼児の病態	1	30
	母子の健康科学	1	30
	家族社会学	1	15
	ウイメンズヘルス	1	30
	小 計	7	195
助産診断・技術学	妊娠期の助産診断・技術学	1	30
	分娩期の助産診断・技術学Ⅰ	2	30
	分娩期の助産診断・技術学Ⅱ	2	45
	産褥期の助産診断・技術学	1	30
	新生児期の助産診断・技術学	1	30
	ハイリスク妊産褥婦の助産診断・技術学	1	30
	緊急時の助産診断・技術学	1	15
	健康教育技法Ⅰ	1	30
	健康教育技法Ⅱ	1	30
	小 計	11	270
地 域 母 子 保 健	地域母子保健	2	30
	小 計	2	30
助 産 管 理	助産管理	2	30
	小 計	2	30
助 産 学 実 習	助産診断・技術学基礎実習	1	45
	助産診断・技術学実習Ⅰ	3	135
	助産診断・技術学実習Ⅱ	3	135
	助産診断・技術学実習Ⅲ	3	135
	地域母子保健実習	1	45
	助産管理実習	1	45
	小 計	12	540
総 計		34	1065

6 教科外活動の内容と時間数

(1) 学校行事

項目		内容	時間数
儀式	入学式	入学許可	4
	卒業式	卒業証書の授与 受胎調節実地指導員講習会修了証書の授与	3
安全	健康診断	身体計測、血液検査・尿検査、胸部X線撮影検査	2
	防災訓練	避難訓練、防火訓練、防犯講和	2
合 計			11

(2) 教育課程の履修に係るガイダンス等(関連;ディプロマポリシー 教育目標1、2、3)

項目	内容	時間数
ガイダンス	学校生活、教育課程	12
	臨地実習オリエンテーション、面談	16
ホームルーム	時間割の説明等	6
合 計		34

(3) キャリア支援に係る研修等(関連;ディプロマポリシー 教育目標4)

項目	内容	時間数
就業支援	就職ガイダンス、面談	2
国家試験対策	国家試験ガイダンス、面談	2
	国家試験受験及び免許申請に係るオリエンテーション	2
	模擬試験	20
	国家試験対策講義	32
研修等	東京都・近県助産師教育機関合同研修会	6
	特別講義	2
	臨地実習のリフレクション	6
その他	日本/茨城県助産師会入会案内等	1
合 計		73

8 教育内容

科目区分	基礎助産学	授業科目	助産学概論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 助産の対象や支援の基盤となる概念を理解する。</p> <p>目標: 1 助産の概念を理解しチーム医療での助産業務を理解する。 2 助産師の職制と業務を理解する。 3 助産や母子保健の歴史的背景から健康支援の方向性を理解する。 4 女性と母子の人権を尊重する専門職の責務を理解する。 5 女性と母子の健康支援を支える理論及び研究の動向を理解する。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 助産の概念	2	1 出産の変遷 2 助産の定義 3 助産ケアのモデル 4 周産期医療の現状と助産の将来 ①継続的ケアと受け持ち助産師制 ②意思決定への援助 ③チーム助産、チーム医療の推進	
2 助産師の定義・業務・教育	3	1 助産師と法律 (1)わが国の法の段階構造 (2)助産師と関係法規・諸制度 2 助産師の職制としての推移と国際的な職制 3 助産師の身分 (1)助産師の定義 (2)助産師国家試験、免許申請、付与 交付、登録免許の取消、業務停止 4 助産師の業務と責務 *受胎調節実地指導員認定講義(1) (1)保健師助産師看護師法からみた助産師の責務 (2)医師法からみた助産師の業務 (3)看護師等の人材確保の促進に関する法律からみた助産師の責務 (4)産科医療のあり方と助産師の働き方 (5)母子保健法・母体保護法・薬事法からみた助産師の業務 5 助産師教育 (1)基礎教育 (2)卒後教育 (3)わが国と諸外国の助産師教育の動向	
3 助産の歴史と母子保健の変遷	2	1 助産の歴史 (1)古代から江戸時代までの助産の変遷 (2)明治から昭和までの助産の変遷 2 母子保健の動向 (1)母子保健の歴史 (2)現在の母子保健の動向 (3)母子保健の動向と諸制度 (4)諸外国における母子保健	
4 女性の健康と人権	2	1 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ *受胎調節実地指導員認定講義(2) 2 女性の健康に関わる権利 3 性差医療の中の女性医療	

5 助産実践と倫理	6 (2)	1 助産師の職業倫理 (1)倫理の位置づけ (2)倫理原則 (3)倫理的意志決定のプロセス 2 助産倫理の主要概念 (1)インフォームド・コンセント (2)患者の権利とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ (3)守秘義務と個人情報の保護 (4)権利擁護 3 倫理綱領とガイドライン (1)助産師の倫理綱領 国際助産師連盟、日本助産師会 (2)ガイドライン (2) 4 性と生殖に関わる倫理 人工妊娠中絶、出生前診断 生殖補助技術、多胎妊娠(減胎中絶)、予後不良児 (2) 5 ペリネイタルロスとグリーフケア	*受胎調節実地指導員認定講義(1)
6 助産学を構成する理論	4	1 助産実践を支える理論 2 対象理解に必要な理論 (1)ルービンの母性論 (2)マーサーの母親役割獲得理論 (3)愛着理論 (4)きずな理論 (5)危機理論	*受胎調節実地指導員認定講義(2)
7 助産分野の研究	10 (2) (8)	1 助産に関する研究の動向 2 研究の意義及び倫理的配慮 3 研究への取り組み (1)課題の明確化 (2)文献検討 (3)考察 (4)発表	
評価	1	試験	
評価方法		出席状況、講義・グループワークの参加状況、レポート、筆記試験など	
テキスト参考資料		医学書院:助産学講座1 基礎助産学[1]助産学概論 日本看護協会出版会:助産師基礎教育テキスト第1巻 助産概論・母子保健 日本看護協会出版会:7 ハイリスク妊産褥・新生児へのケア 新日本法規:看護六法 2026年度版	
履修上の留意事項			
備考		受胎調節実地指導員の申請資格に係る講義である。 (受胎調節実地指導員認定講義カリキュラムを参照)	

科目区分	基礎助産学	授業科目	人間の性と生殖
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 性と生殖及び母子の健康に関する基礎知識を理解する。</p> <p>目標: 1 生殖に関する形態・機能を理解する。 2 遺伝と遺伝疾患を理解する。 3 生殖補助医療の現状を理解する。 4 母子の免疫学特性を理解する。 5 母子に関連する感染症を理解する。 6 母子の薬剤投与の影響を理解する。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 生殖生理	8	1 身体的特徴 (1)女性生殖器の形態と機能 (2)男性生殖器の形態と機能 2 生殖生理に関する視床下部-下垂体系機能 3 卵巣機能と卵巣機能検査法 4 妊娠成立の機序 5 胎児胎盤機能 6 乳汁分泌の生理	
2 性の分化と発達	2	1 内外性器の構造上・機能上の性分化 2 人間の性行動と男女の性反応 3 男女における性障害と性同一性障害	
3 遺伝と遺伝疾患	4	1 遺伝医学の重要性 *受胎調節実地指導員認定講義(2) 2 染色体 (1)染色体の構造と機能 (2)染色体異常 3 遺伝子 (1)遺伝子の構造と機能 (2)遺伝子異常 4 遺伝性疾患の分類 (1)常染色体優性遺伝 (2)常染色体劣性遺伝 (3)X連鎖劣性遺伝 5 出生前診断 (1)出生前診断の種類と特徴 (2)遺伝カウンセリング	
4 生殖補助医療	2	1 生殖補助医療の実際 *受胎調節実地指導員認定講義(2) (1)人工授精 (2)体外受精 (3)顕微受精 (4)配偶子・胚凍結 2 生殖補助医療の問題	
5 不妊症と不育症	2	1 不妊症・不育症の定義 *受胎調節実地指導員認定講義(2) 2 不妊症の原因(男性側・女性側) 3 不妊症の診断の進め方 4 不妊症の治療	

6 母子と免疫	2	1 免疫学概論 2 母体の免疫学的特性 (1)妊娠の成立と維持の免疫 (2)妊娠中の母体の免疫能 (3)母児間血液型不適合妊娠 3 胎児の免疫学特性	
7 性感染症	3	1 性感染症総論 2 ウイルス感染症 3 クラミジア感染症 4 細菌感染症 5 真菌症 6 原虫症 7 寄生虫症	*受胎調節実地指導員認定講義(3)
8 母子と感染	4	1 母子感染症の重要性 2 母子感染の機序 3 母子感染総論 (1)母児の免疫応答 (2)血清抗体の意義 (3)診断法 (4)症状と予後 (5)治療及び予防 4 母子感染各論 (1)風疹ウイルス (2)単純ヘルペスウイルス (3)サイトメガロウイルス (4)水痘・帯状疱疹ウイルス (5)トキソプラズマ (6)梅毒 (7)パルボウイルス (8)B型肝炎ウイルス (9)C型肝炎ウイルス (10)成人T細胞白血病 (11)エイズウイルス (12)ヒトパピローマウイルス (13)クラミジア・トラコマティス (14)B群溶連菌感染症 (15)新型コロナウイルス感染症	
9 母子と薬剤	2	1 薬剤 (1)母子への薬剤服用の原則 (2)妊婦・産婦・褥婦への薬剤と注意すべき薬剤	
評価	1	試験	
評価方法		出席状況、レポート、筆記試験など	
テキスト 参考資料		医学書院:助産学講座2 基礎助産学[2]母子の基礎科学 医学書院:助産学講座3 基礎助産学[3]母子の健康科学 メディックメディア:病気がみえる⑨婦人科・乳腺外科 メディックメディア:病気がみえる⑩産科 産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 産婦人科診療ガイドライン 産科編	
履修上の 留意事項			
備考		受胎調節実地指導員の申請資格に係る講義である。 (受胎調節実地指導員認定講義カリキュラムを参照)	

科目区分	基礎助産学	授業科目	周産期と乳幼児の生理
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 正常な妊娠・分娩・産褥・新生児・乳幼児期の経過を診断する基礎知識を理解する。</p> <p>目標: 1 正常な妊娠経過の診断及び検査方法を理解する。 2 正常な分娩経過の診断及び検査方法を理解する。 3 正常な産褥経過の診断及び検査方法を理解する。 4 新生児期の正常経過の診断及び検査方法を理解する。 5 乳幼児期の身体的・精神的な成長・発達を理解する。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 妊娠期の正常経過の診断	6	<p>正常な妊娠経過の診断</p> <p>1 妊娠の成立条件 *受胎調節実地指導員認定講義(1)</p> <p>2 母体の生理的変化</p> <p>(1)生殖器 (2)全身 (3)代謝 (4)糖代謝 (5)循環器・呼吸器系 (6)内分泌 (7)血液・凝固線溶系 (8)腎・尿路系 (9)消化器系 (10)神経系</p> <p>3 胎児の成長・発達</p> <p>(1)胎児の形態的発育 (2)胎児の機能的発育 (3)胎児－胎盤系の循環と呼吸</p> <p>4 胎児付属物の構造と機能</p> <p>5 妊娠期における検査</p> <p>(1)妊娠診断薬 (2)胎児胎盤機能検査 (3)胎児血採取 (4)超音波の診断法(初期・中期・後期) (5)超音波パルスドプラ法による胎児血流測定 (6)分娩監視装置による胎児モニタリング</p>	
2 分娩期の正常経過の診断	7 (4)	<p>正常な分娩経過の診断</p> <p>1 分娩の定義</p> <p>2 分娩の3要素</p> <p>(1)娩出力 (2)産道 (3)娩出物</p> <p>3 分娩が母体および胎児に及ぼす影響</p> <p>4 正常分娩の機転</p> <p>(1)正常分娩の経過 (2)子宮収縮機序 (3)産道の形成 (4)児頭の娩出機転 (5)肩甲の娩出機転 (6)胎盤の剥離と娩出</p> <p>(3) 5 分娩時の胎児管理</p> <p>(1)胎児心拍数陣痛図の読み方と対応</p>	
3 産褥期の正常経過の診断	2	<p>正常な産褥経過の診断</p> <p>1 産褥の定義</p> <p>2 身体的な変化</p> <p>(1)全身の変化 (2)子宮・膈・外陰部の変化 (3)乳房の変化、乳汁分泌 (4)性周期の発来 (5)代謝の変化</p> <p>3 心理的な変化</p>	

4 新生児期の正常経過の診断	3	<p>正常な新生児の診断方法</p> <p>1 子宮外生活への適応</p> <p>(1)呼吸器系の適応 (2)循環器系の適応</p> <p>(3)体温調節 (4)肝機能の適応</p> <p>(5)消化器系の適応 (6)水分・電解質バランスと腎機能の適応</p> <p>(7)免疫系の適応 (8)感覚器系の適応</p>
5 新生児の出生時の蘇生評価	2	<p>新生児の蘇生の必要性及び蘇生評価の方法</p> <p>1 リスク因子の確認</p> <p>2 出生時の蘇生評価</p> <p>(1)新生児仮死の病態</p> <p>(2)新生児仮死の評価方法</p> <p>3 蘇生のステップと蘇生の実際</p> <p>(1)蘇生のステップ</p> <p>(2)蘇生の初期処置</p>
6 新生児のスクリーニング	1	<p>新生児のスクリーニングの必要性</p> <p>1 胎児の発育に影響を及ぼす因子</p> <p>2 新生児スクリーニングの目的</p> <p>3 新生児スクリーニングの方法</p> <p>(1)先天性代謝異常症検査</p> <p>(2)聴力検査</p> <p>4 全身の観察</p>
7 乳幼児の成長発達	8	<p>乳幼児の身体的・精神的な成長・発達</p> <p>1 身体的な成長・発達</p> <p>2 精神的な発達</p> <p>(1)運動と精神状態の発達</p> <p>(2)発育・発達に影響する因子</p> <p>(3)母子相互作用</p>
評価	1	試験
評価方法	出席状況、レポート、筆記試験など	
テキスト参考資料	<p>医学書院:助産学講座2 基礎助産学[2]母子の基礎科学</p> <p>医学書院:助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期</p> <p>医学書院:助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期</p> <p>医学書院:助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期</p> <p>メジカルビュー社:図説 CTG テキスト</p> <p>日本産婦人科学会:産婦人科診療ガイドライン産科編</p> <p>メディックメディア:病気がみえる⑩産科</p> <p>メディカ出版:周産期超音波の見かた</p> <p>メジカルビュー社:新生児蘇生法テキスト</p> <p>医学書院:新生児学入門</p> <p>南山堂:最新育児小児病学</p>	
履修上の留意事項		
備考		

5 新生児期の異常	6	1 新生児の異常徴候 2 新生児の疾患 (1)分娩損傷 (2)新生児仮死 (3)呼吸障害 ①呼吸窮迫症候群 ②一過性多呼吸 ③胎便吸引症候群 (4)代謝障害 ①低カルシウム血症 ②低血糖 (5)感染症 (6)消化器障害 (7)血液と血管系障害 ①新生児溶血性疾患 ②新生児高ビリルビン血症 ③新生児出血性疾患 (8)その他 ①脳性麻痺 ②新生児期のけいれん ③皮膚疾患 ④眼疾患 3 病的黄疸 4 先天性疾患 5 低出生体重児・早産児 (1)低出生体重児および早産児の定義 (2)低出生体重児の特徴 (3)低出生体重児に起こりやすい合併症 (4)予後 6 急変時の対応
6 乳幼児期の異常	4	1 呼吸器・循環器・消化器の主な病態 2 感染症、ウイルス感染症、細菌感染症 3 アレルギー疾患 4 中枢神経疾患 5 乳幼児突然死症候群(SIDS) 6 予防接種の種類と接種法
評価	1	試験
評価方法	出席状況、レポート、筆記試験など	
テキスト 参考資料	医学書院:助産学講座2 基礎助産学[2]母子の基礎科学 医学書院:助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 医学書院:助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 医学書院:助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期 日本看護協会出版会: 助産基礎教育テキスト7ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 産婦人科診療ガイドライン 産科編 医学書院:新生児学入門 南山堂:最新育児小児病学 メディカ出版:バリネイタルケア夏季増刊 助産師の腕が試されるとき! 無痛分娩パーフェクトガイド	
履修上の 留意事項		
備考		

科目区分	基礎助産学	授業科目	母子の健康科学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 母子の健康に関わる環境要因や諸要素が身体・心理・社会・文化的側面への影響を理解する。</p> <p>目標: 1 母子の健康に必要な生活環境を理解する。 2 母子の栄養の意義および栄養に関する基礎知識を理解する。 3 ライフサイクルにおける栄養管理の特性を理解する。 4 母子の歯科保健の意義および基礎知識を理解する。 5 母子の補完代替医療に関する基礎知識を理解する。 6 妊産婦の運動に関する基礎知識を理解する。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 母子と生活環境	4	1 物理的要因 (1)放射線 (2)非電離放射線 (3)騒音 2 化学的要因 (1)国内外の環境問題の歴史 (2)大気汚染 (3)食品保健 (4)微量化学物質と子どもの健康 (5)水道 3 母子と依存性物質 (1)アルコール (2)依存性薬物 (3)タバコ	
2 母子と栄養	10	1 母子の健康と食生活 (1)妊娠期・授乳期の栄養と食生活 (2)栄養に関する基礎知識 (3)「日本人の食事摂取基準」の基礎知識 (4)栄養状態の評価 2 妊婦の栄養 (1)妊婦の栄養と食生活 (2)母体の栄養と胎児の発育 (3)妊産婦のための食生活指針 3 授乳婦の栄養 (1)授乳期の食事と母乳分泌 (2)妊娠糖尿病既往女性の出産後の留意点 4 乳幼児の栄養 (1)乳幼児の発育・発達の特徴と食生活の意義 (2)母乳・人工栄養、離乳期の栄養 (3)幼児期の食と栄養 (4)乳幼児期の病態栄養 5 学童・思春期の子どもの栄養 (1)栄養の観点からみた学童期・思春期の特徴 (2)学童期・思春期における食生活の問題と健康への配慮	

3 母子の歯科保健	3	1 歯、口腔の発育・発達と母子の歯科保健 (1)歯、口腔の発生・発育とその異常 (2)摂食と口腔機能の発達 (3)乳幼児の齲蝕 (4)妊婦・産後の歯科保健
4 母子と補完代替療法	8 (4) (2) (2)	1 東洋医学 (1)東洋医学と鍼灸医学 (2)鍼灸医学における治療手段と方針 (3)東洋医学における女性のからだ (4)助産技術に応用する鍼灸(ツボ)療法 2 アロマセラピー (1)アロマセラピーの概要 ①アロマセラピーとは ②精油の性質と作用・副作用 (2)産科領域での取り組み ①アロママッサージ ②リフレクソロジー 3 タッチケア (1)タッチケアの概要 (2)タッチケアの効果と実際
5 母子と運動	4	1 妊産婦の運動生理学 (1)妊婦スポーツの目的 (2)運動に対する母体・胎児の反応 (3)妊婦スポーツのガイドライン 2 妊産婦の運動の実際 (1)身体活動とメッツ (2)エクササイズの種類 ①有酸素運動 ②筋カトレーニング ③ストレッチング
評価	1	試験
評価方法		出席状況、レポート、筆記試験、演習など
テキスト参考資料		医学書院:助産学講座3 基礎助産学[3]母子の健康科学
履修上の留意事項		
備考		

科目区分	基礎助産学	授業科目	家族社会学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	1年次
目的: 家族と社会の関係や家族間の特性を理解する。 目標: 1 親子関係の現状と課題を理解する。 2 家族機能の変化や家族の支援体制を理解する。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 家族関係の発達と課題 *「母子の心理・社会学」第2章A～B	8	1 母子関係の形成と課題 (1)母性の発達過程 (2)妊娠期の母子関係 (3)新生児・乳幼児期の母子関係 (4)母子関係の病理 (5)さまざまな状況で子育てする母親の心理 2 父子関係の形成と課題 (1)父性の発達過程 (2)父子関係と子どもの発達 (3)父親のリスク要因と家族への影響	
2 家族と社会	6	1 家族の機能と役割 (1)家族の定義 (2)家族を分析する基本概念 (3)家族の機能 (4)家族の役割と家族の発達課題 2 家族の変化 (1)近代家族の成立 (2)近代家族から現代家族へ 3 多様化するライフコースと家族 (1)結婚・離婚の動向 (2)女性の就労状況の変化 (3)多様化する家族 (4)家族の多様化と格差の拡大 4 家族とケアのゆくえ (1)ケアと家族 (2)男女共同参画社会の形成とワークライフバランス 5 家族と法 (1)戦後日本における家族法の歴史 (2)現行家族法の基本ルールと問題点 (3)家族法の現代的課題 6 母親と社会 (1)社会的存在としての母親 (2)歴史のなかの母親 (3)近代化のなかの母親 (4)現代の母親 7 父親と社会 (1)歴史のなかの父親 (2)現代社会の父親 8 現代社会における多様な「親」のあり方 (1)親とはなにか (2)現代社会の多様な「親子」のきずな保障	

評価	1	試験
評価方法	出席状況、レポート、筆記試験など	
テキスト 参考資料	医学書院:助産学講座 4 基礎助産学[4]母子の心理・社会学	
履修上の 留意事項		
備考		

科目区分	基礎助産学	授業科目	ウイメンズヘルス
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 女性のライフサイクル各期の身体的・心理的特性と課題を理解する。 目標: 1 女性のライフサイクルにおける身体的特性と特有な疾患・治療を理解する。 2 女性のライフサイクルにおける心理的特性、健康問題及び継続的支援を理解する。 3 家族計画の意義と受胎調節の方法を理解する。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 女性のライフサイクルの身体的な特性	7 (4)	<p>1 思春期・成熟期女性に特有な健康障害</p> <p>(1)性器の奇形・異常 (2)初経(早発月経、遅発月経) (3)月経周期の異常(月経不順、稀発月経、無月経)、体重減少性無月経 (4)月経困難症 (5)月経前症候群(PMS)、月経前不快気分障害(PMDD) (6)過多月経、過少月経 (7)多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)</p> <p>2 更年期・老年期女性に特有な健康障害</p> <p>(1)閉経、更年期障害 (2)脂質異常症、糖尿病 (3)萎縮性膀胱炎 (4)排尿障害、尿失禁、過活動膀胱 (5)骨盤臓器脱 (6)骨粗鬆症</p> <p>3 女性生殖器と乳房の疾患</p> <p>(1)女性生殖器の疾患 ①子宮腫瘍(がん、肉腫、子宮筋腫、子宮腺筋症、ポリープ) ②卵巣腫瘍、良性卵巣腫瘍 ③子宮内膜症</p> <p>(2)検査法 ①基本的な診察(視診、触診、腔鏡診、内診) ②腔分泌物等を用いた検査(鏡検、培養) ③超音波検査法 ④MRI</p> <p>(1) ⑥子宮頸部細胞診 *演習1時間</p> <p>(2) (2)乳房疾患 ①乳癌 ②良性乳腺疾患 (3)検査法 ①基本的な診察(視診、触診) ②超音波検査法③ ③MRI ④マンモグラフィー</p>	
2 女性のライフサイクルにおける心理的・社会的特性	10 (8)	<p>1 女性の心理的・社会的特性</p> <p>(1)成長・発達における心理的・社会的特性及び支援 ①思春期の身体発育・性的成熟とその心理的受容 ②対人関係の発達(親子関係・友人関係) ③親準備性の発達 ④ジェンダー・アイデンティティの発達 ⑤セクシュアリティの発達 ⑥性的指向・性自認の多様性</p>	

科目区分	助産診断・技術学	授業科目	妊娠期の助産診断・技術学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 妊娠経過及び母児の健康状態の判断に必要な基本的知識及び技術を習得する。</p> <p>目標: 1 妊娠経過及び母児の健康状態の判断に必要な助産技術を習得する。 2 妊娠期の診断を理解する。 3 臨床判断モデルの思考をとおして、妊娠各期の妊婦及び家族に必要なケアを理解する。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 臨床判断	1	1 臨床判断モデルとは (1)臨床判断と臨床推論 (2)臨床判断モデルの概要(気づき、解釈、反応、省察)	
2 妊娠期の助産診断及び助産技術	4	1 妊娠期のマタニティ診断の特徴 (1)経過診断 ①妊娠の確定 ②分娩予定日・妊娠時期 ③母体の状態 ④胎児の状態 ⑤胎児附属物の状態 (2)健康生活診断 ①基本的な生活行動 ②精神・心理的生活行動 ③社会的生活行動 ④出産育児行動 2 健康診査技術 (1)問診 (2)外診(視診、触診、計測診、聴診) (3)内診	
3 妊婦と家族への支援	24	1 日常生活適応へのケア (1)栄養 (2)排泄 (3)活動・休息 (4)清潔 (5)性生活 (6)マイナートラブル (7)母乳育児に向けた支援 2 心理・社会的側面へのケア (1)親役割の準備への支援 ①母親役割への適応のための支援 ②父親役割への適応のための支援 ③家族役割機能の変化に対する支援 ④出産・育児準備 (2)社会資源の活用への支援 ①妊娠に関する母子保健事業 ②就労女性への支援	
評価	1	試験	
評価方法	出席状況、演習の参加状況、レポート、筆記試験		

<p>テキスト 参考資料</p>	<p>医学書院:助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 日本看護協会出版会:助産師基礎教育テキスト4 妊娠期の診断とケア 医学書院:実践マタニティ診断 医学書院:マタニティ診断ガイドブック 産婦人科診療ガイドライン産科編 2023 日本助産師会:助産業務ガイドライン2024 南江堂:今日の助産 メディックメディア:病気がみえる⑩産科 インターメディカ:新訂版 写真でわかる母性看護技術アドバンス メディカ出版:ペリネイタルケア2021年夏季増刊 妊婦健診と保健指導/パワーアップガイド メディカ出版:ペリネイタルケア2024年冬季増刊 最新図解でよくわかる お母さんと赤ちゃんの生理とフィジカルアセスメント サイオ出版:周産期ケアマニュアル 医学書院:助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版</p>
<p>履修上の 留意事項</p>	<p>単元3「妊婦と家族への支援」は、演習をとおして学習する。</p>
<p>備考</p>	

科目区分	助産診断・技術学	授業科目	分娩期の助産診断・技術学 I
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	2 単位(30 時間)	開講年次	1 年次
<p>目的: 分娩経過及び母児の健康状態の判断に必要な基本的知識及び技術を習得する。 目標: 1 分娩経過及び母児の健康状態の判断に必要な助産技術を習得する。 2 分娩期の診断を理解する。 3 臨床判断モデルの思考をとおして、分娩各期の産婦及び家族に必要なケアを理解する。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 分娩期の助産診断及び助産技術	5	1 分娩期のマタニティ診断の特徴 (1)経産診断 ①分娩時期 ②分娩開始 ③分娩経過 ④分娩3要素 ⑤分娩機転(回旋) ⑥母体の状態 ⑦胎児の状態 ⑧分娩予測 ⑨分娩直後の状態 (2)健康生活診断 ①基本的生活行動 ②精神・心理的生活行動 ③社会的生活行動 ④出産育児行動 2 健康診査技術 (1)問診 (2)外診(視診、触診、計測診、聴診) (3)内診	
2 産婦と家族への支援	24	1 産婦支援の基本 (1)産婦の意思・主体性の尊重 (2)産婦と家族中心のケア (3)心身の苦痛の緩和 (4)正常逸脱の予防 2 分娩経過に沿ったケア (1)分娩第1期のケア ①基本的欲求の充足 ②出産環境への配慮 ③産痛緩和 ④分娩進行の促進 ⑤家族への支援 (2)分娩第2・3期のケア ①基本的欲求の充足 ②呼吸法・リラクゼーションの誘導 ③必要時の怒責誘導 ④出血量に応じた体位の調整 (3)分娩後2時間までのケア ①出血・子宮復古状態の観察 ②基本的欲求の充足 ③母子の早期接触 ④母子と家族との対面 ⑤産婦・家族の分娩体験の想起	
評価	1	試験	
評価方法	出席状況、演習レポート、筆記試験		
テキスト参考資料	医学書院;助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 日本看護協会:助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断とケア 日本産婦人科学会:産婦人科診療ガイドライン産科編 日本助産師会出版:助産業務ガイドライン 2024 医学書院:実践マタニティ診断 南江堂:今日の助産 医学書院:助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版 インターメディカ:新訂版 写真でわかる母性看護技術アドバンス メディカ出版:THE 分娩 メディックメディア:病気がみえる⑩産科 メディカ出版:ペリネイタルケア2024年冬季増刊 最新図解でよくわかる お母さんと赤ちゃんの生理とフィジカルアセスメント		
履修上の留意事項	単元2「産婦と家族への支援」は、演習をとおして学習する。		
備考			

科目区分	助産診断・技術学	授業科目	分娩期の助産診断・技術学Ⅱ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	2 単位(45 時間)	開講年次	1 年次
目的: 分娩経過に沿って一連の分娩介助技術を習得し、産婦の状況に応じた介助法を理解する。 目標: 1 分娩期の助産技術の提供に必要な基礎的知識を理解する。 2 多様な分娩ニーズに対応するための基礎的知識および分娩介助技術を理解する。 3 分娩に携わる多職種専門性を尊重し、役割調整(コミュニケーション)の重要性を理解する。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 分娩期助産技術の基礎的知識	14 (2)	1 分娩介助の意義・原理 (1) 分娩介助の意義 (2) 分娩介助の原理 ①分娩時の姿勢と分娩進行 ②分娩体位 ③呼吸法 ④怒責の誘導と必要性	
	(4)	2 多様な分娩ニーズに対応するための基礎的知識 (1)硬膜外麻酔分娩(無痛分娩)	
	(4)	(2)フリースタイル分娩 ①側臥位 ②四つん這い ③座位 ④蹲踞位 ⑤立位	
	(4)	3 分娩に携わる他職種との連携 (1)間接介助の役割 (2)新生児受けの役割 (3)医師・新生児科医師との連携	
2 仰臥位の分娩介助技術	30	1 仰臥位分娩の介助技術 (1)分娩介助の準備 ①分娩室の整備・準備 ②手指消毒 ③外陰部消毒 ④ガウンテクニック ⑤清潔野作成 (2)分娩介助の実際 ①導尿 ②肛門圧迫・保護 ③人工破膜 ④会陰保護 ⑤児頭娩出 ⑥肩甲娩出 ⑦軀幹娩出 ⑧第一呼吸の助成 ⑨臍帯切斷、臍処置 ⑩臍帯血採取 ⑪胎盤娩出 ⑫分娩損傷の点検 2 分娩直後の産婦へのケア (1)外陰部の清拭 (2)分娩終了時オリエンテーション 3 出生直後の新生児のケア (1)出生直後の新生児のケア ①呼吸の確立 ②全身の観察(外表奇形の観察) ③保温 ④点眼 ⑤母児対面 4 胎児付属物の観察方法 (1)胎児付属物の精査 ①観察項目・観察方法 ②胎内環境の評価	
評価	1	試験	
評価方法	出席状況、レポート、筆記試験、技術試験		
テキスト 参考資料	医学書院:助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 日本看護協会:助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断とケア 医学書院:助産師のためのフィジカルレグザミネーション 第2版 インターメディカ:新訂版 写真でわかる母性看護技術アドバンス 南江堂:今日の助産 メディカ出版:THE 分娩		

	メディカ出版:ペリネイタルケア 2023 年夏季増刊 無痛分娩パーフェクトガイド
履修上の 留意事項	
備考	

科目区分	助産診断・技術学	授業科目	産褥期の助産診断・技術学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 産褥経過及び健康状態の判断に必要な基本的知識及び技術を習得する。 目標: 1 産褥経過及び健康状態の判断に必要な助産技術を習得する。 2 産褥期の診断を理解する。 3 臨床判断モデルの思考をとおして、産褥期の褥婦及び家族に必要なケアを理解する。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 産褥期の助産診断及び助産技術	3	1 産褥期のマタニティ診断の特徴 (1)経過診断 ①産褥日数 ②産褥経過 ③母体の状態 (2)健康生活診断 ①基本的生活行動 ②精神・心理的生活行動 ③社会的生活行動 ④出産育児行動 2 健康診査に必要な技術 (1)問診 (2)外診 (3)内診	
2 褥婦と家族への支援	26 (8)	1 正常経過にある褥婦の乳房管理のためのアセスメントとケア (1)母乳栄養確立の診断 (2)母乳栄養確立へのケア (3)育児行動取得に対するケア 2 健康逸脱・異常状態およびハイリスク状態にある褥婦の乳房管理のためのアセスメントとケア (1)異常状態・合併症の予防とケア (2)特殊な状況にある褥婦のケア 3 退行性変化を促す支援 4 褥婦のセルフケア能力を高める支援 (1)休息と活動 *2時間(演習を含む) ①産褥体操 ②骨盤ケア (2)栄養 (3)排泄 (4)清潔 5 母親役割取得への支援 (1)心理過程 (2)愛着形成 (3)育児行動 (4)母親役割取得に影響する因子 (5)家族のサポート 6 家族関係の再構築 7 自己選択の支援 (1)授乳方法選択への支援 (2)家族計画の支援 8 家庭・社会生活復帰への支援	
評価	1	試験	
評価方法	出席状況、演習の参加状況、レポート、筆記試験		

<p>テキスト 参考資料</p>	<p>医学書院:助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ【2】[分娩期・産褥期] 日本看護協会出版会:助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア 医学書院:実践マタニティ診断 南江堂:今日の助産 医学書院:助産師のためのフィジカルイグザミネーション インターメディカ:写真でわかる助産技術アドバンス 日本助産師会出版:助産業務ガイドライン2024 医学書院:母乳育児支援スタンダード へるす出版:よくわかる母乳育児 母子保健事業団:授乳・離乳の支援ガイド 実践の手引き メディックメディア:病気がみえる⑩産科 メディカ出版:ペリネイタルケア2024年冬季増刊 最新図解でよくわかる お母さんと赤ちゃんの生理とフィジカルアセスメント メディカ出版:ペリネイタルケア増刊 New 乳房ケア・母乳育児支援のすべて</p>
<p>履修上の 留意事項</p>	<p>単元2「褥婦と家族への支援」は、演習をとおして学習する。</p>
<p>備考</p>	

科目区分	助産診断・技術学	授業科目	新生児期の助産診断・技術学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 新生児期の経過及び健康状態の判断に必要な基本的知識及び技術を習得する。</p> <p>目標: 1 出生後の経過及び健康状態の判断に必要な助産技術を習得する。 2 新生児期の診断を理解する。 3 臨床判断モデルの思考をとおして、ハイリスク児を含む新生児及び家族に必要なケアを理解する。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 新生児期の助産診断及び助産技術	3	1 新生児期のマタニティ診断の特徴 (1)経過診断 ①日齢 ②出生直後の状態 ③早期新生児の状態 ④新生児の経過 (2)健康生活診断 ①養護 ②環境 2 健康診査技術 (1)外診 (2)視診 (3)触診 (4)聴診 (5)計測診	
2 新生児と家族への支援	17	1 出生時のケア (1)リスク因子の確認 (2)蘇生の必要性の評価とケア方針の決定 (3)ルーチンケア 2 出生後 24 時間以内のケア (1)アセスメント (2)出生後の身体清潔 (3)呼吸と体温の維持 (4)哺乳と排泄 (5)与薬 (6)母親との相互作用や家族とのかかわり (7)感染予防 (8)新生児の安全確保 3 出生後 24 時間以降の早期新生児のケア (1)呼吸・循環・体温 (2)睡眠・覚醒リズム (3)栄養 (4)皮膚の清潔 (5)新生児黄疸 (6)新生児マスキューニング 4 家庭生活への移行とフォローアップ (1)退院に向けての準備 (2)退院から健診までの育児支援	

3 ハイリスク 新生児と家 族のケアの 基本	3	1 新生児の異常徴候と疾患 (1)新生児の異常徴候 (2)新生児の疾患 2 呼吸循環障害 (1)新生児仮死 (2)呼吸窮迫症候群 (3)胎便吸引症候群 (4)母子関係確立への援助 3 分娩損傷 4 黄疸 5 低出生体重児と親へのケア (1)低出生体重児・早産児の定義と分類 (2)低出生体重児へのケア (3)低出生体重児・早産児の親へのケア (4)低出生体重児の予後とフォローアップ 6 ハイリスク新生児の母乳育児支援 (1)早産児と母乳 (2)搾乳方法および母乳の管理法 7 ハイリスク新生児のデベロップメンタルケア (1)新生児の神経発達 (2)デベロップメンタルケア (3)デベロップメンタルケアの実際
4 新生児の 蘇生	6	1 新生児の蘇生 (1)新生児蘇生に必要な呼吸循環動態の基礎知識 (2)蘇生のステップと新生児蘇生法の実際
評価	1	試験
評価方法	出席状況、演習の参加状況、レポート、筆記試験	
テキスト 参考資料	医学書院:助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ【3】新生児期・乳幼児期 日本看護協会出版会:6 産褥期のケア新生児期・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会:7 ハイリスク妊産褥・新生児へのケア 医学書院:実践マタニティ診断 医学書院:助産師のためのフィジカルレグザミネーション 医学書院:乳幼児健診マニュアル 南江堂:最新育児小児病学 南江堂:今日の助産 日本助産師会出版:助産業務ガイドライン2024 メディックメディア:病気がみえる⑩産科 メジカルビュー社:新生児蘇生法テキスト インターメディカ:新訂版 写真でわかる母性看護技術アドバンス メディカ出版:ペリネイタルケア2024年冬季増刊 最新図解でよくわかる お母さんと赤ちゃんの生理とフィジカルアセスメント	
履修上の 留意事項	単元2「新生児と家族への支援」は、演習をとおして学習する。 単元4「新生児の蘇生」は、NCPR の A コースを行う。	
備考		

科目区分	助産診断・技術学	授業科目	ハイリスク妊産褥婦の助産診断・技術学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: ハイリスク・異常状態にある妊産褥婦の経過及び健康状態の判断に必要な基本的知識及び技術を習得する。</p> <p>目標: 1 ハイリスク・異常妊産褥婦の助産診断を理解する。 2 ハイリスク・異常妊産褥婦の支援方法を理解する。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援	10	<p>ハイリスク・異常妊婦へのアセスメントと支援方法を理解する。</p> <p>1 身体的ハイリスク因子のアセスメント</p> <p>2 心理的社会的ハイリスク因子のアセスメント</p> <p>3 異常妊娠・ハイリスク妊婦のケア</p> <p>(1)妊娠悪阻</p> <p>(2)切迫流産</p> <p>(3)前期破水</p> <p>(4)妊娠高血圧症候群</p> <p>(5)妊娠性貧血</p> <p>(6)妊娠糖尿病</p> <p>(7)前置胎盤</p> <p>(8)常位胎盤早期剥離</p> <p>(9)多胎妊娠</p> <p>(10)骨盤位</p> <p>(11)子宮内胎児死亡</p> <p>(12)若年妊娠 高齢妊娠</p> <p>(13)帝王切開既往妊婦</p> <p>4 心理的問題を持つ妊婦へのケア</p> <p>(1)妊娠の受け入れ困難</p> <p>(2)出産に対する不安</p> <p>(3)胎児との愛着形成困難</p> <p>(4)被虐待経験者</p>	
2 ハイリスク・異常産婦のアセスメントと支援	15	<p>1 身体的ハイリスク因子のアセスメント</p> <p>2 心理的ハイリスク因子のアセスメント</p> <p>3 異常分娩・偶発疾患のアセスメント</p> <p>4 ハイリスク・異常産婦のケア</p> <p>(1)娩出力の異常</p> <p>(2)産道の異常</p> <p>(3)胎位の異常</p> <p>(4)回旋の異常</p> <p>(5)胎児機能不全</p> <p>(6)胎児付属物の異常</p> <p>(7)肩甲難産 (*緊急時の助産診断・技術学で演習)</p> <p>(8)異常出血</p> <p>(9)胎児に起因する難産</p> <p>(10)子癇</p> <p>(11)羊水塞栓</p> <p>(12)播種性血管内血液凝固症候群(DIC)</p> <p>(13)分娩損傷</p> <p>5 産科手術の介助とケア</p> <p>(1)急速遂娩法</p> <p>(2)吸引分娩 (*緊急時の助産診断・技術学で演習)</p>	

		(3)鉗子分娩 (4)骨盤位牽出術 (5)帝王切開術 (*帝王切開前後のケアについて事例展開5時間) 6 母児の救急搬送時の対応 (1)助産師の役割と業務 (2)周産期医療システム (3)救急搬送の実際 (4)異常出血の対応 7 心理社会的ハイリスク産婦と家族へのケア
3 ハイリスク・異常褥婦のアセスメントと支援	4	1 身体的ハイリスク因子のアセスメント 2 心理社会的ハイリスク因子のアセスメント 3 不快症状の緩和へのケア 4 産褥期の異常と合併症の予防 (1)産褥出血 (2)子宮復古不全 (3)産褥熱 (4)恥骨結合離開 (5)静脈瘤および血栓性静脈炎 (6)深部静脈血栓症・肺塞栓症 (7)感染症 (8)妊娠高血圧症後遺症 (9)乳頭損傷・乳腺炎 5 心理的異常をもつ褥婦のケア 6 特殊な状態にある褥婦へのケア 7 母乳育児を行えない/行わない母親の支援 8 母子愛着形成の障害、児の虐待ハイリスク要因の早期発見と支援
評価	1	試験
評価方法		出席状況、演習の参加状況、レポート、筆記試験
テキスト 参考資料		医学書院:助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 医学書院 医学書院:助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 医学書院 日本看護協会出版会:7 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア 日本産婦人科学会 :産婦人科診療ガイドライン産科編2023 日本助産師会出版:助産業務ガイドライン2024 メディカ出版:母体急変時の初期対応 メディックメディア:病気がみえる⑩産科 帝王切開バイブル インターメディアカ:新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス メディカ出版:ペリネイタルケア2024年冬季増刊 最新図解でよくわかる お母さんと赤ちゃんの生理とフィジカルアセスメント
履修上の 留意事項		
備考		

科目区分	助産診断・技術学	授業科目	緊急時の助産診断・技術学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	1年次
<p>目的: ハイリスク・異常状態にある妊産褥婦の緊急対応に必要な基本的知識及び技術を理解する。 目標: 1 胎児管理に必要な超音波検査と画像の見方を理解する。 2 分娩期の急速遂娩及び緊急対応の実際を理解する。 3 臨床判断モデルの思考をとおして、母体急変時に必要な対応を理解する。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 緊急対応	14	1 緊急対応の実際 (2) (1)妊娠期から分娩期(胎児管理:超音波検査と画像の見方) (2) (2)分娩期(娩出時の対応:肩甲難産) (2) (3)分娩期(急速遂娩への対応:吸引分娩) (3) (4)分娩期(緊急対応:会陰切開術・会陰縫合の実際) (5) (5)産科救急(母体急変への対応の実際) ①正常経産分娩後に出血が増加した褥婦 ②陣痛室で急激な下腹部痛を訴え始めた妊婦 ③分娩進行に伴って息苦しさを覚え始めた妊婦 その他	
評価	1	試験	
評価方法	出席状況、演習の参加状況、レポート、筆記試験		
テキスト 参考資料	医学書院:助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 医学書院:助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 医学書院:助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期 日本看護協会出版会:7 ハイリスク妊産褥・新生児へのケア 日本産婦人科学会:産婦人科診療ガイドライン産科編2023 日本助産師会出版:助産業務ガイドライン2024 メディカ出版:母体急変時の初期対応 メディカ出版:THE 分娩 インターメディカ:新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス		
履修上の 留意事項			
備考			

科目区分	助産診断・技術学	授業科目	健康教育技法 I
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1 単位(30 時間)	開講年次	1 年次
目的: ライフサイクルにおける健康支援に必要な基礎的教育技法を習得する。 目標: 1 健康教育活動に必要な教育・相談技術を理解する。 2 健康教育の目的及び健康教育のプロセスを理解する。 3 セクシュアリティ教育を企画・展開する技法を習得する。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 教育技術	5	1 教育と学習の理論 *受胎調節実地指導員認定講義(5) 2 健康教育の理論 3 教育の方法 4 PBL, eラーニング 5 指導計画の立案・作成	
2 相談技術	5	1 カウンセリング *受胎調節実地指導員認定講義(5) 2 コミュニケーション 3 意思決定支援 4 アサーティブネス・アサーション 5 ネゴシエーション	
3 健康教育のプロセス	4	1 健康教育の定義 *受胎調節実地指導員認定講義(4) 2 ヘルスプロモーション 3 健康教育の目的と目標 4 健康教育の対象と場 5 個人へのアプローチ (1)場や手段におけるアプローチの違い (2)特定された相談におけるアプローチ 6 集団へのアプローチ (1)集団指導の理論と方法 (2)集団への相談・教育活動の種類 7 健康教育のプロセス (1)準備・計画 ①ニーズの調査 ②目標の設定 ③企画 (2)実施 ①展開方法 ②媒体 (3)評価	
4 マタニティサイクルにおける健康教育 I	5	妊娠期の対象への健康教育 (1)個別の保健指導 ①妊娠初期・中期・末期の保健指導の実際 (2)集団の出産準備教育 ①出産準備教育の意義と動向 ②集団指導の技法と指導者の役割 ③対象のニーズの把握とアセスメント	
5 ライフサイクルにおける健康教育	10	1 ライフサイクルとセクシュアリティ教育の目的と内容 (1)思春期 (2)成熟期 (3)更年期・中年期・老年期 2 セクシュアリティ教育の企画	
評価	1	試験	

評価方法	出席状況、講義・グループワークの参加状況、筆記試験
テキスト 参考資料	<p>医学書院:助産学講座 5 助産診断・技術学 I 日本助産師会:助産師による思春期の健康教育 医学書院:助産学講座 6 助産診断・技術学 II [1]妊娠期 日本看護協会出版会:助産師基礎教育テキスト4妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版社:助産師基礎教育テキスト 2 ウイメンズヘルスケア 南江堂:今日の助産 メディカ出版:ペリネイタルケア2021年夏季増刊 妊婦健診と保健指導パワーアップガイド</p>
履修上の 留意事項	
備考	<p>受胎調節実地指導員の申請資格に係る講義である。 (受胎調節実地指導員認定講義カリキュラムを参照)</p>

科目区分	助産診断・技術学	授業科目	健康教育技法Ⅱ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
目的: ライフサイクルにおける健康支援に必要な基礎的教育技法を習得する。 目標: 1 マタニティサイクルにおける健康教育を企画・展開する技法を習得する。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 マタニティサイクルにおける健康教育Ⅱ	29	1 産褥期の対象への健康教育 *受胎調節実地指導員認定講義(12) (1)産褥期の保健指導の種類と目的 (2)対象のニーズと把握とアセスメント (3)指導目標の設定 (4)指導計画の作成 ①指導項目の検討と抽出 ②指導方法の検討 ③指導案の作成(導入・展開・まとめ) (5)指導計画の実施と評価	
評価	1	試験	
評価方法	出席状況、講義・グループワークの参加状況、指導案発表、筆記試験		
テキスト 参考資料	医学書院:助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 医学書院:助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ【2】[分娩期・産褥期] 日本看護協会出版社:助産師基礎教育テキスト2 ウイメンズヘルスケア 日本看護協会出版会:助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア 南江堂:今日の助産 日本家族計画協会:受胎調節指導用テキスト		
履修上の 留意事項	受胎調節実地指導員認定講義のため、受胎調節の指導・実施・評価の演習・討議を行う。		
備考			

4 母子保健 行政		<p>2 母子保健にかかわる制度</p> <p>(3)保健指導</p> <p>(4)療養援護</p> <p>①妊娠高血圧症候群等療養援護</p> <p>②未熟児療育医療</p> <p>③療育の指導</p> <p>④小児慢性特定疾病</p> <p>⑤その他の制度</p> <p>(5)医療対策</p> <p>(6)母子健康手帳</p> <p>(7)予防接種</p> <p>(8)不妊に対する相談と治療費助成</p> <p>①特定不妊治療費助成事業</p> <p>(9)ひとり親家庭の支援</p> <p>(10)職域における母子保健</p> <p>(11)女性保護</p> <p>3 母子保健施策</p> <p>(1)健やか親子 21(第2次)</p> <p>(2)成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針</p> <p>(3)少子化社会対策大綱と次世代育成支援対策推進法</p>
5 地域母子 保健活動の 基盤	2	<p>1 母子保健活動における連携・協働</p> <p>(1)地域包括ケアシステム</p> <p>(2)関係機関との連携と調整</p> <p>①こども家庭センターとの連携</p> <p>②医療機関、産後ケア、母子保健事業、福祉、民間組織・自助グループ等との連携</p>
6 地域母子 保健活動の 展開	13 (2) (2) (2) (7)	<p>1 地域母子保健事業と助産師活動の実際</p> <p>(1)妊娠期から育児期までの切れ目のない支援</p> <p>①こども家庭センターとの連携</p> <p>②児童虐待予防</p> <p>③要支援妊産婦支援体制</p> <p>④産前・産後サポート 他</p> <p>(2)地域での助産サービスの実際(連携・協働を含む)</p> <p>(2) 産後ケアの実際</p> <p>(1)子育ての現状・ニーズ</p> <p>(2)産後ケア事業の実際(連携・協働を含む)</p> <p>(2) 3 助産所の実際</p> <p>(1)地域の現状・ニーズ</p> <p>(2)開業助産所での活動の実際(連携・協働を含む)</p> <p>①電話相談</p> <p>②新生児訪問指導</p> <p>③メンタルヘルスケア</p> <p>(7) 4 家庭訪問の実際</p> <p>(1)訪問活動の種類・対象・根拠法令</p> <p>(2)家庭訪問の実際</p>

7 国際母子保健	4	1 諸外国の母子保健 (1)母子保健の現状と課題 (2)母子保健施策の現状 (3)開発途上国における母子の問題と母子保健活動の実際 2 海外在住日本人の母子保健 3 在日外国人の母子保健 (1)在日外国人の現状と課題 (2)在日外国人母子が利用できる母子保健制度 (3)在日外国人母子への助産ケア (4)外国人母子への情報提供 (5)地域における他職種との連携
評価	1	試験
評価方法	出席状況、講義・演習・グループワークの参加状況、筆記試験	
テキスト 参考資料	医学書院:助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院:助産学講座 4 基礎助産学[4]母子の心理・社会学 (単元3) 日本看護協会出版社:助産学基礎教育テキスト1 助産概論・母子保健 母子衛生研究会:母子保健の主なる統計 大阪府助産師会:新生児訪問・乳児家庭全戸訪問活動実践マニュアル 医学書院:乳幼児健診マニュアル	
履修上の 留意事項		
備考	※「ライフコースに応じた助産師の役割」は、ウイメンズヘルスで学習をする。	

科目区分	助産管理	授業科目	助産管理
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 助産管理の基本及び助産師としての義務・責任を理解する。</p> <p>目標: 1 助産管理の基本を理解する。 2 関連法規と助産師の義務・責任を理解する。 3 周産期医療システムとリスクマネジメントを理解する。 4 病産院における助産業務管理を理解する。 5 助産所における助産業務管理を理解する。 6 家庭における分娩管理を理解する。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 助産管理の基本	2	1 管理の基本概念とプロセス (1)管理とマネジメント (2)マネジメントプロセスとPDCAサイクル (3)組織とマネジメント (4)マネジメントに必要な資源 (5)マネジメントに活用できる理論 2 助産管理の概念 (1)助産管理の定義 (2)助産ケアのマネジメント (3)助産サービスのマネジメント (4)助産サービスの評価 3 助産と医療経済 (1)医療保険制度と助産業務 (2)助産業務の診療報酬 (3)分娩費用	
2 関連法規と助産師の義務・責任	3	1 関連法規 (1)医療法 (2)保健師助産師看護師法 (3)医師法 (4)母子保健法 (5)母体保護法 (6)児童福祉法 (7)地域保健法 (8)戸籍法 (9)刑法 (10)民法 (11)労働法、就業規則 2 助産師の法的責任と義務 (1)応召義務 (2)証明書の交付 (3)助産録の記載 (4)業務届出 (5)守秘義務	
3 周産期医療システム	4	1 周産期医療システムの構築過程 (1)新生児集中治療室(NICU) ①周産期医療システム ②新生児集中治療室(NICU)の概要 ③新生児集中治療室(NICU)の診療・看護の基本 ④新生児集中治療室(NICU)の基本的知識	

		<p>(2)周産期搬送システム</p> <p>①周産期医療ネットワーク</p> <p>②都道府県の役割</p> <p>③周産期搬送システムの現状と課題</p> <p>(3)オープンシステム</p> <p>①オープンシステムとセミオープンシステム</p>
4 リスクマネジメント	4	<p>1 周産期の医療事故とリスクマネジメント</p> <p>(1)周産期医療事故の特徴とその解決</p> <p>(2)助産業務におけるリスクマネジメント</p> <p>(3)産科医療保障制度</p> <p>2 医療安全に関する国の取り組み</p> <p>3 助産業務におけるリスクマネジメント</p> <p>(1)病院における医療安全管理体制整備</p> <p>(2)安全管理</p> <p>(3)情報管理</p> <p>(4)院内感染対策</p> <p>(5)災害時の助産管理</p> <p>①災害への備え ②看護・助産ケアにおける活動方針</p>
5 災害時の地域母子保健活動	3	<p>1 災害時の地域母子保健活動</p> <p>(1)災害の定義と種類</p> <p>(2)災害時の母子保健の実情</p> <p>(3)母子保健支援者へのケア</p>
6 助産サービスの質の管理	2	<p>1 助産サービスと質の管理</p> <p>(1)助産サービスとは (2)助産サービスの質</p> <p>(3)助産サービスの質の管理</p> <p>2 助産サービスの質管理に必要な概念</p> <p>(1)顧客、要求、サービス (2)組織、管理、改善</p> <p>3 助産サービス管理の実際</p>
7 病産院における助産業務管理	4	<p>1 助産業務管理の過程</p> <p>(1)助産管理と助産業務管理</p> <p>(2)看護組織の目標管理制度</p> <p>(3)業務の査定</p> <p>(4)目標管理の実践プロセス</p> <p>(5)業務計画の策定と評価</p> <p>2 助産業務管理の方法</p> <p>(1)組織管理</p> <p>(2)書類管理</p> <p>(3)財務管理</p> <p>(4)業務の質管理</p> <p>3 産科棟の管理</p> <p>(1)看護体制</p> <p>(2)労務管理</p> <p>(3)診療情報の提示と開示</p> <p>(4)継続的な援助システム</p> <p>(5)快適な出産環境</p> <p>4 院内助産の管理</p> <p>(1)院内助産システムの定義</p> <p>(2)院内助産の業務管理と体制</p> <p>(3)院内・外との連携</p> <p>5 外来の助産管理</p> <p>(1)産科外来</p> <p>(2)助産外来</p> <p>(3)母乳外来</p> <p>(4)専門外来と助産業務管理</p>

8 助産所における助産業務管理	3	1 助産所とは (1)助産所の建物 (2)助産所の業務 2 助産所の管理に関する法規 (1)助産所の定義 (2)助産所の管理者とその義務 (3)助産所の構造と設備 (4)助産所の広告 (5)助産所に対する監督 3 助産所の管理・運営 (1)助産所管理の基本 (2)助産所の安全の確保 (3)医療との連携 ①嘱託医と嘱託医療機関 ②助産所業務ガイドライン ③医療連携の実際 ④助産所の環境・設備・備品 ⑤家庭分娩 4 助産所の経営 (1)経営 (2)医療貸付制度 (3)母子の社会保険制度
9 家庭における分娩管理	4	1 家庭分娩における適応・基準 2 家庭分娩に向けた準備 3 家庭分娩に必要な物品 4 分娩時の対応と留意点 5 褥婦・新生児・家族の支援
評価	1	試験
評価方法		出席状況、レポート、筆記試験
テキスト 参考資料		医学書院:助産学講座 10 助産管理 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト3 助産サービス管理 日本助産師会:助産所開業マニュアル 日本助産師会:助産業務ガイドライン2024 日本助産師会出版:助産師が行う災害時支援マニュアル 新日本法規出版株式会社:看護六法
履修上の 留意事項		
備考		

助産学実習

目的

講義で学んだ知識・技術を統合し、助産師としての専門性の発揮とチーム医療による連携・協働で
きる能力を習得し、対象のニーズに応えられる豊かな人間性と、根拠に基づく安全で快適な助産ケア
を提供できる判断力と実践力を養う。

目標

- 1 妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象の健康状態を診断し、根拠に基づく安全で快適な助産ケア
が提供できる判断力と実践力を習得する。
- 2 対象の家族発達への支援、親子関係の促進、親役割獲得へ継続的に支援するための能力を習得す
る。
- 3 母子をとりまく保健・医療・福祉チームにおける助産師の役割および責務を自覚し、多職種と連
携・協働できる能力を養う。
- 4 女性と子ども並びに家族の尊厳と権利を尊重する倫理観および専門職として自律する能力と自
己の助産観を養う。

【助産診断・技術学基礎実習】

[1 単位 45 時間]

目的

対象の特性を捉え、根拠に基づく支援を実践するための基礎的能力を習得する。

目標

- 1 妊娠期の臨床判断能力を養うことができる。
 - 1)臨床判断モデルの思考をとおして、妊娠各期に必要な助産ケアに気づくことができる。
 - 2)一連の妊婦健康診査が理解できる。
 - 3)妊婦健康診査技術が習得できる。
 - 4)妊娠経過から分娩・産褥を予測し、予防的観点から日常生活上のセルフケアを促す援助が理解
できる。
 - 5)妊婦や家族への出産準備・親役割獲得の援助が理解できる。
- 2 対象の状態に応じた助産実践が理解できる。
 - 1)分娩見学やバースレビューをとおして、出産体験の振り返りと受容の支援が理解できる。
 - 2)1 か月健康診査までの母子と家族を支援するための、助産ケアと保健指導が理解できる。
 - (1)母乳育児支援の実際が理解できる。
 - (2)対象の特性をふまえた保健指導が理解できる。
- 3 対象者の意思決定支援のためのパートナーシップを築く必要性が理解できる。
- 4 保健・医療・福祉チームの連携・協働のあり方と助産師の役割と責務について理解できる。
- 5 助産師学生として望ましい態度が習得できる。
 - 1)学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
 - 2)助産実践を振り返り、自己の課題が明確にできる。
 - 3)対象のニーズや価値観を尊重し、誠実に対応できる。

【助産診断・技術学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】

〔 9 単位 405 時間 〕

目的

妊産褥婦および胎児・新生児とその家族が安全・安楽に経過するための必要な判断力・実践力を養う。

目標

- 1 妊産褥婦および胎児・新生児とその家族の健康状態を診断し、妊娠・分娩・産褥がより健康で安全・安楽に経過し育児を主体的に行えるように、支援ができる。
- 2 保健・医療・福祉チームにおける助産師の役割と責務を自覚し、多職種と連携・協働しながら継続的な支援ができる。
- 3 女性とその家族の尊厳と権利を尊重する倫理観と自己の助産観を養う。

【地域母子保健実習】

[1 単位 45 時間]

目的

地域の特徴や母子保健活動について理解し、母子をとりまく保健・医療・福祉チームと連携および協働し地域における子育て世代を包括的に支援するための能力を養う。

目標

- 1 地域の特性をふまえた地域母子保健活動の実際が理解できる。
 - 1)対象の生活圏の地域特性が理解できる。
 - 2)母子が居住する地域で提供されている母子保健活動が理解できる。
 - 3)家庭訪問をとおし、産後 4 か月程度までの母子の健康状態がアセスメントできる。
 - 4)産後ケアセンターの役割と機能を理解し、切れ目ない支援の必要性が理解できる。
 - 5)母子や家族をとりまく保健・医療・福祉チームとの連携および協働が理解できる。
 - 6)災害時の母子への支援が理解できる。
- 2 地域における母子保健活動の実際から助産師の役割と責務について考察できる。
- 3 助産師学生としての望ましい態度を習得できる。
 - 1)学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
 - 2)助産実践を振り返り、自己の課題が明確にできる。
 - 3)対象のニーズを尊重し、誠実に対応できる。

【助産管理実習】

[1単位 45 時間]

目的

場の特徴に応じた助産業務管理の実際と周産期医療システムの運用と地域連携、助産に関するリスクマネジメントを理解し、保健・医療・福祉チームにおける連携・協働のあり方と助産師の役割を考察する。

目標

- 1 病院・診療所・助産所等の特性に応じた助産業務管理が理解できる。
- 2 周産期医療システムの運用と地域連携を行う必要性が理解できる。
- 3 助産に関する関係法規とリスクマネジメントが理解できる。
- 4 保健・医療・福祉チームにおける助産師の専門性と役割・責務および多職種との連携・協働について考察できる。
- 5 助産師学生としての望ましい態度が習得できる。
 - 1) 学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
 - 2) 助産実践を振り返り、自己の課題が明確にできる。
 - 3) 対象のニーズや価値観を尊重し、誠実に対応できる。

10 助産師教育の技術項目と卒業時の到達度

■卒業時の到達度レベル

<演習>

I:モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる。

II:モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる

<実習>

I:単独で実施できる

II:指導の下で実施できる

III:実施が困難な場合は見学する

項目	技術の種類		卒業時の到達度		
			演習	実習	
1. 妊婦健康診査に係る手技	1	レオポルド触診	I	I	
	2	子宮底及び腹囲測定	I	I	
	3	ザイツ法	I	I	
	4	胎児心音聴取	I	I	
	5	内診	I	II	
	6	ノンストレステストの実施	I	I	
	7	経腹超音波を用いた計測	II	III	
2. 分べん進行の診断に係る手技	8	分娩開始装置の装着	I	I	
	9	内診	I	II	
3. 分べん介助に係る手技	10	分娩野の作成	I	I	
	11	肛門保護	I	I	
	12	会陰保護	I	I	
	13	最小周囲径での児頭娩出	I	I	
	14	肩甲娩出	I	I	
	15	骨盤誘導線に沿った体幹の娩出	I	I	
	16	臍帯巻絡の確認	I	I	
	17	臍帯結紮及び切断	I	I	
	18	新生児の自発呼吸の確認及び蘇生	I	II	
	19	適切な方法での胎盤娩出	I	I	
	20	胎盤の確認	I	I	
	21	軟産道の状態の確認	I	II	
	22	子宮収縮状態の確認	I	I	
	23	出血の状態の確認	I	II	
	24	児及び胎児付属物の計測	I	II	
	25	分べんに係わる記録の記載	I	II	
	4. 異常発生時の母子への介入に係る手技	26	胎児機能不全への対応	II	III
		27	産科危機的出血への処置	II	III
28		産婦に対する一次救急処置(BLS)	II	III	
29		会陰切開及び裂傷後の縫合	II	III	
30		新生児蘇生法の実施	II	III	

11 受胎調節実地指導員認定講義カリキュラム

根拠規定;母体保護法 第 15 条

母体保護法施行規則 昭和 27 年 8 月 4 日 厚令 32

第 17 条 法第 15 条第 2 項に規定する認定講習の認定基準は、次のとおりとする。

- 1 受講資格は、助産師、保健師又は看護師であること。
- 2 講習の科目及び時間数は、別表に定めるもの以上であること。
- 3 受講者の定員は、各学級につき 10 人以上 30 人以下であること。
- 4 講習に必要な施設及び設備を有していること。
- 5 運営の方法が適性であること。

別表 講習科目及び時間数

科目	時間数	備考
総論	9	受胎調節の意義と目的、母体保護と受胎調節、関連概念の整理、母体保護法及び薬事法の解説並びに人工妊娠中絶の現状と母体に及ぼす影響を含む。
受胎調節の基礎	5	
受胎調節の指導	13	
実習	10	実習は模型又は人体で行うものとし、実習に必要な模型は 3 人に 1 個、モデルは 3 人に 1 人を基準とする。
討論	2	
考査	1	
計	40	

受胎調節実地指導員認定講義カリキュラム

茨城県立看護大学校 助産学科

規定上の科目	時間数	本校科目(時間数)	内容	担当
総論	16	助産学概論 (6 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・母体保護法・薬事法からみた助産師の責務 ・リプロダクティブヘルス/ライツ ・インフォームド・コンセント ・助産師の倫理綱領 ・性と生殖に関わる倫理 	内部教員 外部講師
		人間の性と生殖 (9 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝性疾患、出生前診断 ・生殖補助医療 ・不妊症と不育症 ・性感染症 	外部講師
		周産期と乳幼児の生理 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠の成立条件 	外部講師
受胎調節の基礎	5	ウイメンズヘルス (5 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・家族計画に関する基礎知識 ・各種受胎調節法の特徴と留意点 	内部教員
受胎調節の指導	16	ウイメンズヘルス(2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・避妊法の指導に必要な基礎知識 	内部教員
		健康教育技法 I (14 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育技術 ・相談技術 ・健康教育のプロセス 	外部講師 内部教員
実習 討論	12	健康教育技法 II (12 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・受胎調節の指導・実施・評価 	内部教員
考査	1			
合 計	50			

12 助産師の倫理綱領

International Code of Ethics for Midwives Strengthening Midwifery Globally

前文

国際助産師連盟(ICM)の目的は、専門職としての助産師の育成や教育、適切な活用を通じ、世界中の女性や乳児および家族に提供されるケアの水準を向上させることである。この目的に沿い、ICMは、助産師の教育、実践、研究を行う上での指針として以下の倫理綱領を示している。この倫理綱領は、女性を人権を持つ人として尊重し、全ての人々のための正義と保健医療へのアクセスにおける公平性を追求するもので、社会を構成する全ての人々による、お互いへの敬意や信頼、権利の尊重といった相互関係に基づいている。倫理綱領は、家族や地域社会内の女性と新生児の健康や福祉を増進するため、ICMのミッションや助産師の定義、ICM世界基準に沿って助産師の倫理的義務を示すものである。このようなケアには、妊娠前の時期から更年期、そして、人生の終末までを通じた女性のリプロダクティブ・ライフサイクルを含む場合もある。これらの義務には、どのように助産師が他者と関わり、助産を実践し、専門職としての責任と職務を担い、そして助産師がどうあるべきかという点に関連して、ICMの目的と目標を達成する助産師の倫理的な義務が含まれる。

綱領

I 助産における関係性

- a.助産師は、一人一人の女性とのパートナーシップを築き、女性が情報を得た上での意思決定や、発展する医療ケアに関する計画への同意、自己の選択による結果への責任を引き受けられるように、関連情報を共有する。
- b.助産師は、女性あるいは家族が、自らが受けるケアについての決定に積極的にかかわる権利を支援する。
- c.助産師は、それぞれの文化・社会において女性と家族の健康に影響を与える問題に対して、女性および家族が自らの考えをのべられるようにその力を高める。
- d.助産師は、女性と共に、医療サービスに対する女性のニーズを明確にし、優先順位や供給状況を考慮した上で資源が確実に公平な形で配当されるよう、政策機関や資金提供機関と協働する。
- e.助産師は、専門職としての役割を果たす上で互いに支援、支持し合い、自己および他の助産師の自尊心を積極的に育む。
- f.助産師は、他の医療職種と敬意を持って協働し、女性のケアに対するニーズが助産師の能力を超える場合には、必要に応じて相談や紹介を行う。
- g.助産師は、実践において関係する人々の協働が必要であることを認識し、内在する対立の解決に積極的に努める。
- h.助産師は、道徳的価値をもつ人間として自己に対する責任があり、道徳的に自己を尊重し、人格を保つ義務がある。

II 助産の実践

- a.助産師は、女性および出産をむかえる家族にケアを行う際に、文化的多様性を尊重するとともに、その文化における有害な慣習をなくすよう働きかける。
- b.助産師はいかなる場合においても妊娠・出産によって女性や女兒が傷つくことがあってはならないという最低限の認識を奨励する。
- c.助産師は、あらゆる環境や文化において安全な助産実践を行うための能力を維持するため、最新で根拠に基づいた専門的知識を活用する。
- d.助産師は、保健医療を求める女性に対し、彼女たちがいかなる状況にあっても、心理的・身体的・感情的・信条的なニーズに応える(不当差別の禁止)。
- e.助産師は、あらゆるライフステージの女性、家族、他の保健医療専門職に対して、健康増進の効果的な役割モデルとして行動する。
- f.助産師は、助産師としてのキャリア全体を通し、自己の成長や、知的・専門的成長を積極的に目指し、その成長を自らの助産業務に反映させる。

III 専門職としての助産師の責任

- a.助産師は、プライバシーの権利を保護するため、クライアント情報の秘密を守り、法律で義務付けられている場合を除き、その情報を共有する場合には適切な判断に基づいて行う。
- b.助産師は、自己の決定と行動に対する責任を有し、女性へのケアの結果について、説明する責任がある。
- c.助産師は、自らが道徳的に強く抵抗を感じる活動に対し、参加しないことを決定することができる。しかし、助産師個人の良心を重視することにより、女性に必要な不可欠な医療サービスを受ける機会を奪うことがあってはならない。
- d.助産師は、サービスの依頼に対して助産師自身の道徳的な抵抗感がある場合には、そのサービスを提供できる医療機関に女性を紹介する。
- e.助産師は、倫理や人権の侵害が女性や新生児の健康にもたらす悪影響について理解し、そのような侵害をなくすよう働きかける。
- f.助産師は、全ての女性および出産を迎える家族の健康を増進する医療政策の策定と実施に携わる。

IV 助産の知識と実践の発展

- a.助産師は、助産の知識の発展は、人としての女性の権利を保護する活動に裏付けられるものであることを保証する。
- b.助産師は、助産師間の相互評価や研究など様々な過程を通じて、助産の知識を発展させ、共有する。
- c.助産師は、助産師を目指す学生への正式な教育や、助産師の継続教育に貢献する。

助産学科使用・参考図書一覧

科目	使用図書	参考図書
助産学概論	医学書院:助産学講座1 基礎助産学[1]助産学概論 日本看護協会出版会: 助産師基礎教育テキスト第1巻 助産概論・母子保健 日本看護協会出版会:7 ハイリスク妊産褥・新生児へのケア 新日本法規:看護六法 2025年度版	
人間の性と生殖	医学書院:助産学講座2 基礎助産学[2]母子の基礎科学 医学書院:助産学講座3 基礎助産学[3]母子の健康科学 メディックメディア:病気がみえる⑨婦人科・乳腺外科 メディックメディア:病気がみえる⑩産科 産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 産婦人科診療ガイドライン 産科編	
周産期と乳幼児の生理	医学書院:助産学講座2 基礎助産学[2]母子の基礎科学 医学書院:助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 医学書院:助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 医学書院: 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期 メジカルビュー社:図説 CTGテキスト 日本産婦人科学会:産婦人科診療ガイドライン産科編2023 メディックメディア:病気がみえる⑩産科 メディカ出版:周産期超音波の見かた メジカルビュー社:新生児蘇生法テキスト 南山堂:最新育児小児病学	医学書院:新生児学入門
周産期と乳幼児の病態	医学書院:助産学講座2 基礎助産学[2]母子の基礎科学 医学書院:助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 医学書院:助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 医学書院: 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期 日本看護協会出版会: 助産基礎教育テキスト7ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 産婦人科診療ガイドライン 産科編 南山堂:最新育児小児病学 メディカ出版: ペリネイタルケア夏季増刊 助産師の腕が試されるとき! (無痛分娩パーフェクトガイド)	医学書院:新生児学入門
母子の健康科学	医学書院:助産学講座3 基礎助産学[3]母子の健康科学	
家族社会学	医学書院:助産学講座4 基礎助産学[4]母子の心理・社会学	
ウィメンズヘルス	医学書院:助産学講座2 基礎助産学[2]母子の基礎科学 医学書院:助産学講座3 基礎助産学[3]母子の健康科学 医学書院:助産学講座4 基礎助産学[4]母子の心理・社会学 医学書院:助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 日本看護協会出版会: 助産師基礎教育テキスト2 ウィメンズヘルスケア メディックメディア:病気がみえる⑨ 婦人科・乳腺外科	日本助産師会出版:助産師による 思春期の健康教育
妊娠期の 助産診断・技術学	医学書院:助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 日本看護協会出版会: 助産師基礎教育テキスト4 妊娠期の診断とケア 医学書院:実践マタニティ診断 医学書院:マタニティ診断ガイドブック 産婦人科診療ガイドライン産科編 日本助産師会:助産業務ガイドライン 南江堂:今日の助産 メディックメディア:病気がみえる⑩産科 インターメディア:新訂版 写真でわかる母性看護技術アドバンス メディカ出版:ペリネイタルケア2021年夏季増刊 妊婦健診と保健指導パワーアップガイド メディカ出版: ペリネイタルケア2024年冬季増刊 最新図解でよくわかる お母さんと赤ちゃんの生理とフィジカルアセスメント サイオ出版:周産期ケアマニュアル 医学書院:助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版	

科目	使用図書	参考図書
分娩期の 助産診断・技術学Ⅰ	医学書院:助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 日本看護協会:助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断とケア 日本産婦人科学会:産婦人科診療ガイドライン産科編 日本助産師会出版:助産業務ガイドライン2024 医学書院:実践マタニティ診断 南江堂:今日の助産 医学書院:助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版 インターメディカ:新訂版 写真でわかる母性看護技術アドバンス メディカ出版:THE分娩 メディックメディア:病気がみえる⑩産科 メディカ出版: ペリネイタルケア2024年冬季増刊 最新図解でよくわかる お母さんと赤ちゃんの生理とフィジカルアセスメント	
分娩期の 助産診断・技術学Ⅱ	医学書院:助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 日本看護協会:助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断とケア 医学書院:助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版 インターメディカ:新訂版 写真でわかる母性看護技術アドバンス 南江堂:今日の助産 メディカ出版:THE分娩 メディカ出版: ペリネイタルケア2023年夏季増刊 無痛分娩パーフェクトガイド	
産褥期の 助産診断・技術学	医学書院:助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ[2][分娩期・産褥期] 日本看護協会出版会:助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア 医学書院:実践マタニティ診断 南江堂:今日の助産 医学書院:助産師のためのフィジカルイグザミネーション インターメディカ:写真でわかる母性看護技術アドバンス 日本助産師会出版:助産業務ガイドライン2024 医学書院:母乳育児支援スタンダード へるす出版:よくわかる母乳育児 母子保健事業団:授乳・離乳の支援ガイド 実践の手引き メディックメディア:病気がみえる⑩産科 メディカ出版: ペリネイタルケア2024年冬季増刊 最新図解でよくわかる お母さんと赤ちゃんの生理とフィジカルアセスメント メディカ出版: ペリネイタルケア増刊 New乳房ケア・母乳育児支援のすべて	
新生児期の 助産診断・技術学	医学書院:助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期 日本看護協会出版会:6 産褥期のケア新生児期・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会:7 ハイリスク妊産褥・新生児へのケア 医学書院:実践マタニティ診断 医学書院:助産師のためのフィジカルイグザミネーション 医学書院:乳幼児健診マニュアル 南江堂:最新育児小児病学 南江堂:今日の助産 日本助産師会出版:助産業務ガイドライン2024 メディックメディア:病気がみえる⑩産科 メジカルビュー社:新生児蘇生法テキスト インターメディカ:新訂版 写真でわかる母性看護技術アドバンス メディカ出版: ペリネイタルケア2024年冬季増刊 最新図解でよくわかる お母さんと赤ちゃんの生理とフィジカルアセスメント	
ハイリスク妊産褥婦の 助産診断・技術学	医学書院:助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 医学書院 医学書院: 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 医学書院 日本看護協会出版会:7 ハイリスク妊産褥・新生児へのケア 日本産婦人科学会 :産婦人科診療ガイドライン産科編 日本助産師会出版:助産業務ガイドライン2024 メディカ出版:母体急変時の初期対応 メディックメディア:病気がみえる⑩産科 メディカ出版:帝王切開バイブル インターメディカ:新訂版 写真でわかる母性看護技術アドバンス メディカ出版: ペリネイタルケア2024年冬季増刊 最新図解でよくわかる お母さんと赤ちゃんの生理とフィジカルアセスメント	

科目	使用図書	参考図書
緊急時の 助産診断・技術学	医学書院:助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 医学書院:助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 医学書院:助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期 日本看護協会出版会:7 ハイリスク妊産褥・新生児へのケア 日本産婦人科学会:産婦人科診療ガイドライン産科編 日本助産師会出版:助産業務ガイドライン2024 メディカ出版:母体急変時の初期対応 メディカ出版:THE分娩 インターメディカ:新訂版 写真でわかる母性看護技術アドバンス	
健康教育技法Ⅰ	医学書院:助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 医学書院:助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 日本看護協会出版会: 助産師基礎教育テキスト4妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版社: 助産師基礎教育テキスト2 ウイメンズヘルスケア 南江堂:今日の助産 メディカ出版: ペリネイタルケア2021年夏季増刊 妊婦健診と保健指導パワーアップガイド	日本助産師会:助産師による思春期の健康教育
健康教育技法Ⅱ	医学書院:助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 医学書院:助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2][分娩期・産褥期] 日本看護協会出版社: 助産師基礎教育テキスト2 ウイメンズヘルスケア 日本看護協会出版会: 助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア 南江堂:今日の助産	日本家族計画協会:受胎調節指導用テキスト
地域母子保健	医学書院:助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院:助産学講座4 基礎助産学[4]母子の心理・社会学 日本看護協会出版会: 助産学基礎教育テキスト1 助産概論・母子保健 母子衛生研究会:母子保健の主なる統計 医学書院:乳幼児健診マニュアル	大阪府助産師会:新生児訪問・乳児家庭全戸訪問活動実践マニュアル
助産管理	医学書院:助産学講座10 助産管理 日本看護協会出版会: 助産師基礎教育テキスト3 助産サービス管理 日本助産師会:助産所開業マニュアル 日本助産師会:助産業務ガイドライン2024 新日本法規出版株式会社:看護六法	日本助産師会出版:助産師が行う災害時支援マニュアル